

## I. 目的

待遇表現の習得は、日本語学習者にとって困難であると言われる。本研究では、日本語学習者の待遇表現の習得の実態を日本語母語話者と比較調査し、習得上の困難が現われる局面を分析した。また、「特定の副詞には丁寧度を高める働きがある」という仮説を立てその検証を試みた。この丁寧度は、本研究では言語行動において「丁寧さ」(politeness)と言われる概念を表すものとする。副詞については、日常会話の中で頻繁に用いられる「やっぱり」を取り上げた。「やっぱり」にはさまざまな用法があるが、話し手による判断の妥当性を主張する場合に用いられるもの、またその根拠となるべき社会通念、常識的判断を踏まえていることを表す「やっぱり」の用法が、今回の調査目的にかなうと考えられる。そのため、そのような意味で用いられた「やっぱり」という言葉のもつ待遇表現としての機能について考えることにした。

## II. 調査概要

### 1. 実施期間1992年5月

### 2. 対象

(L1) 日本人大学生……123名(男性72名、女性51名)

(L2) 日本語学習者……75名(韓国語話者38名、中国語話者28名、その他9名)

被験者となった学習者は、いずれも1年以上の日本語学習歴を有する。

### 3. 内容(資料1. 参照)

以下の内容に関し、井出祥子他(1986)で用いられた手法を援用してアンケート調査を行った。日本人大学生を「日本人」、日本語学習者を「学習者」とする。

①日本人と学習者が日常接する機会のあると思われる人物(A~H)に対する丁寧度を5段階で測定する。

②「ペンを借りる」という依頼表現(a~p)に関する日本人と学習者の丁寧度を5段階で測定し、対話相手と言語表現に関する丁寧度の相関を得る。(A~Hの人物それぞれに対して用いる表現をa~pの中から選択する)

③副詞「やっぱり」を含む場合(a~r)に関して同様の調査を行う。

(日本人には、「ヨーロッパへ行くとしたら季節はいつがいいか」、学習者に

は「あなたの国へ行くとしたらいいか」の問いに対する答えとする)

### Ⅲ. 調査結果 (資料参照)

#### 1. 「ペンを借りる」という依頼表現 (a~p) について (資料3. 参照)

- ① h (丁寧度最大) ~ o (丁寧度最小) までの丁寧度の幅を比較すると、日本人の方が学習者に比べてかなり大きい。
- ② 標準偏差の平均を比較すると、それぞれの表現に対してもっている丁寧度のばらつきは、学習者の方がかなり大きい。
- ③ 日本人は p, k, j の表現にはっきりと丁寧度の差を感じているが、学習者はこれらを明確に区別していない。
- ④ 日本人は e, d のグループと l, a, b, o のグループにはっきりと丁寧度の差を意識しているが、学習者は明確に区別していない。

#### 2. 副詞「やっぱり」と丁寧度との関わりについて (資料4. 参照)

- ① 日本人は丁寧度が文末のデス体とダ体で分けられると意識しているが、学習者は明確な区別をしない。
- ② 日本人・学習者ともに、「やっぱり」のついた表現の方がつかない表現より、すべて丁寧度が高い。
- ③ 人物相関を見ると、丁寧度の高く出た相手には「やっぱり」の使用が多く、丁寧度の低く出た相手には「やっぱり」のついた文の使用は少ない。

### Ⅳ. 結論

1. 待遇表現について学習者は「ぼんやり」(拙1986)した丁寧度しかもっていない。
2. 副詞「やっぱり」には親愛・共存を表す待遇表現上の機能があり、本研究においては、その機能が丁寧度を高めていると言える。

### Ⅴ. 今後の課題

1. 調査数を増やして学習者の母語別に分析し、母語の影響を探る。
2. 自然な談話の中で用いられた副詞と文末表現を分析し、アンケート調査の結果との両面から副詞とそれに応ずる文末の待遇表現上の機能を明らかにする。
3. 調査結果の日本語教育への応用の可能性を探る。

#### 〈参考文献〉

- 水谷信子(1985)『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版  
水谷信子(1989)『待遇表現指導の方法』『日本語教育』69号  
井出祥子他(1986)『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂

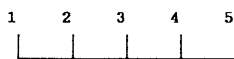
荻野綱男(1989)	「対照社会言語学と日本語教育」	『日本語教育』69号
山本富美子(1989)	「待遇表現としての文体」	『日本語教育』69号
小篠敏明編(1983)	『英語の誤答分析』	大修館書店
国立国語研究所(1990)	『敬語教育の基本問題(上)』	
国立国語研究所(1991)	『副詞と意味の用法』	
西原鈴子(1988)	「話者の前提-「やはり(やっぱり)」の場合-」	『日本語学』3月号vol. 7
神尾昭雄(1990)	『情報のなわ張り理論』	大修館書店

資料1

①人物カテゴリー

- A. あなたの学校の校長先生、または大学の学長
- B. あなたの学校の担任の先生、または指導教授
- C. 弟/妹 [家で話をしている時]
- D. 兄/姉 [家で話をしている時]
- E. 父親/母親 [家で話をしている時]
- F. 普通の友達 [教室で話をしている時]
- G. 特に仲のよい友達[あなたの部屋で話をしている時]
- H. アルバイト先の上司

気楽な ←→ 改まった



②「ペンを借りる」依頼表現

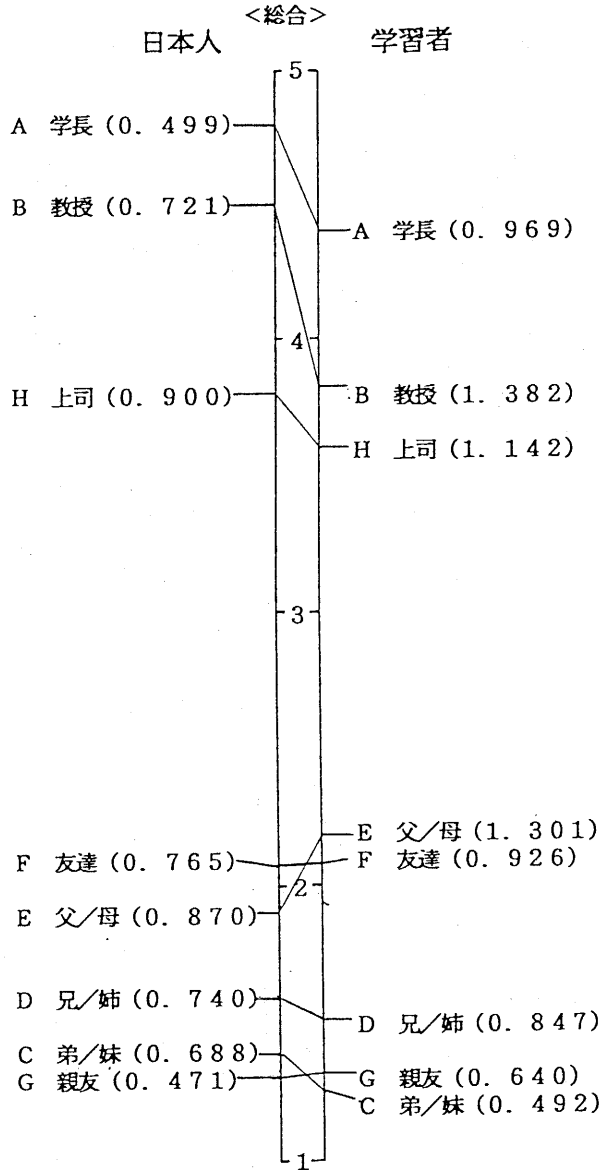
- a. そのペン貸して。
- b. そのペン借りるよ。
- c. そのペン貸していただけませんか。
- d. そのペン貸してくれる?
- e. そのペン借りていい?
- f. そのペン貸してもらえませんか。
- g. そのペン貸していただけますか。
- h. そのペンお借りしてもよろしいでしょうか。
- i. そのペンお借りできますか。
- j. そのペン貸してほしいんだけど。
- k. そのペン貸して下さい。
- l. そのペン貸してよ。
- m. そのペン貸していただきたいんですけど。
- n. そのペン貸して下さいませんか。
- o. ペンある?
- p. そのペン貸してくれませんか。

③「やっぱり」を含む表現

- a. やっぱり秋がいいですね。
- b. やっぱり秋がいいですよ。
- c. やっぱり秋がいいでしょうね。
- d. やっぱり秋がいいでしょう。
- e. やっぱり秋がいいです。
- f. やっぱり秋がいいね。
- g. やっぱり秋がいいだろうね。
- h. やっぱり秋がいいだろう。
- i. やっぱり秋がいいよ。
- 「やっぱり」を含まない表現
- j. 秋がいいですね。
- k. 秋がいいですよ。
- l. 秋がいいでしょうね。
- m. 秋がいいでしょう。
- n. 秋がいいです。
- o. 秋がいいね。
- p. 秋がいいよ。
- q. 秋がいいだろうね。
- r. 秋がいいだろう。

資料2.

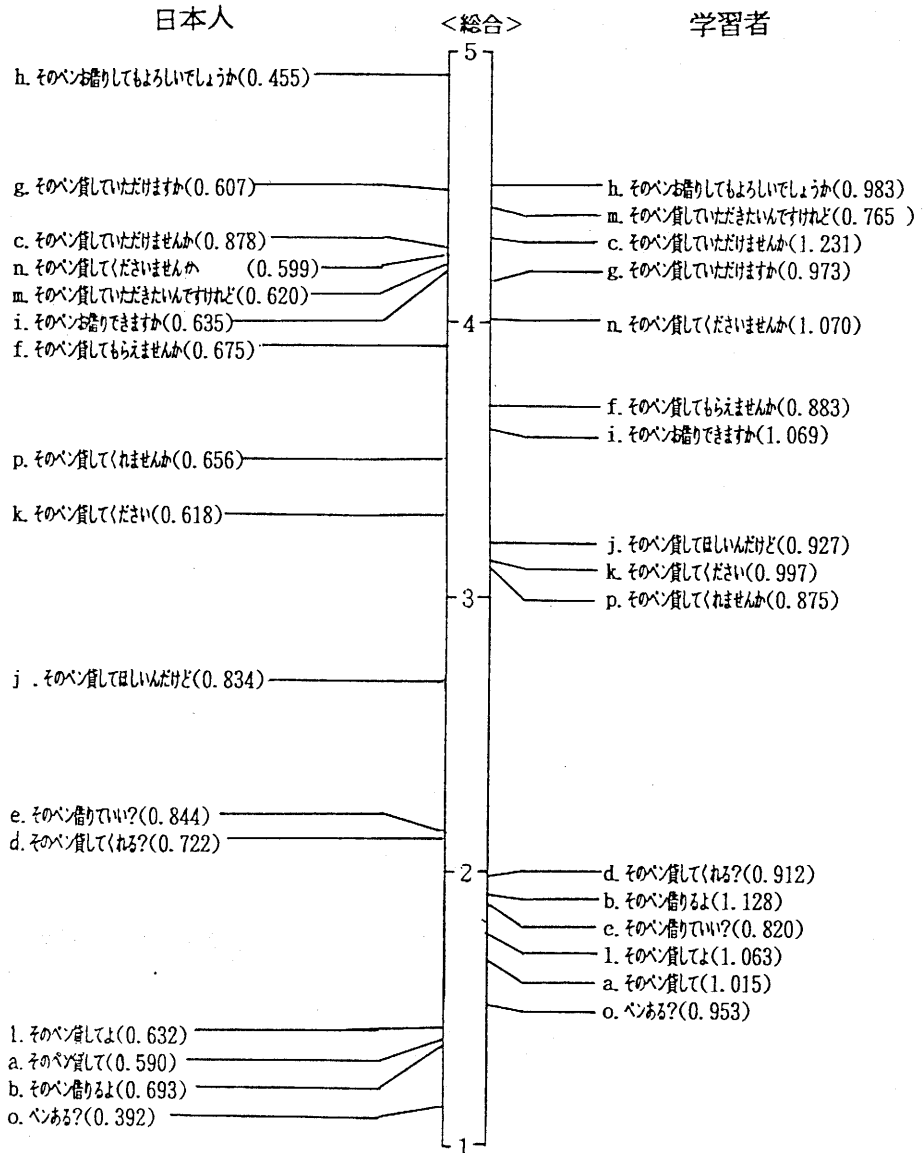
相手の人物カテゴリーの丁寧度の平均値と標準偏差



※ ( )内は標準偏差

資料3.

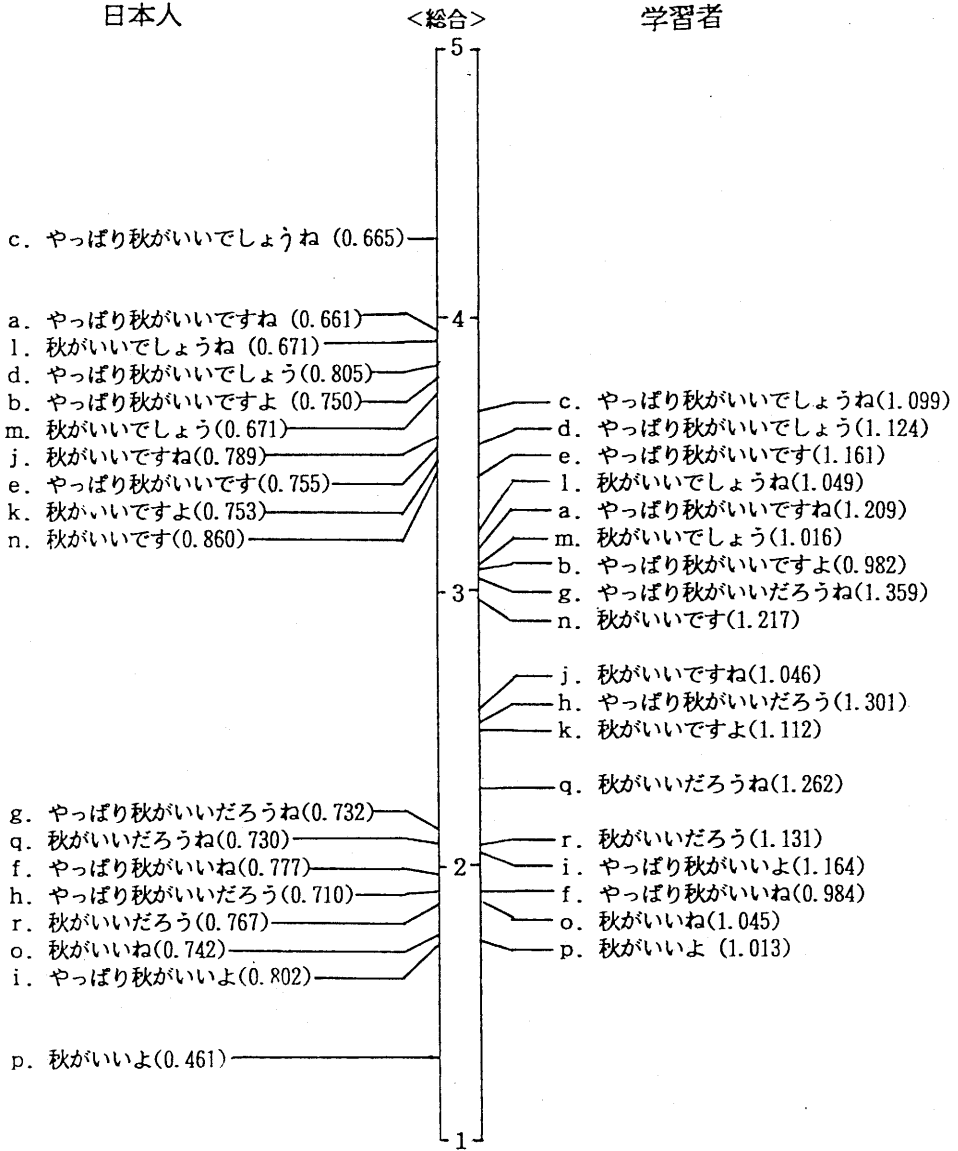
表現の丁寧度の平均値と標準偏差



※ ( ) 内は標準偏差

資料 4.

表現の丁寧度の平均値と標準偏差



※ ( ) 内は標準偏差